

# 大人のための1UP↑を目指す クールな図書館 BIZCOLI (ビズコリ) ～地域シンクタンクがリードする知の交流拠点～

公益財団法人九州経済調査協会  
(福岡県福岡市)

公益財団法人九州経済調査協会（以下、九経調）は、会員制のビジネスライブラリー「BIZCOLI（以下、ビズコリ）」を自ら運営しており、数ある地域シンクタンクのなかでもシャープな感性や独自性が際立っている存在といえます。

「地域シンクタンク 北から南から」第2回は、ビジネスマンや九州の経済人が多数訪れ、コミュニケーションの場となっている「ビズコリ」の魅力について、八尋<sup>やひろかずろう</sup>和郎館長にお話をうかがいました。



八尋館長（左）とビズコリの顔 祭城氏（右）

1. ビズコリ開設の背景と経緯
2. ビズコリの概要と特色
3. ビズコリでの取り組み
4. 今後の展開について
5. ビズコリ利用者とスタッフの声
6. おわりに～ ビズコリが目指す未来

## 1. ビズコリ開設の背景と経緯

●まず、ビズコリ設立に至る経緯とその背景等についてお聞かせ下さい。—————

八尋館長 九経調は、戦地から帰還された南満州鉄道調査部出身の先輩たちの手によって、終戦直後に

設立されました。一面の焼け野原のなか、これから二度と戦争を起ささないために、何をすればよいのかを常に考えてこられたそうです。そして、「これからの日本の再建と発展には、科学的な根拠に基づいた統計資料や調査が必要である」という信念を抱いて出発したため、初期の出版物は統計集が多く残っています。九経調では「紙くず拾いの歴史」と言われているのですが、「数値が載っている資料は全て持ち帰るように」という号令の下に資料収集が始まり、経済図書館を経て、今日のビズコリへと発展してきたのです。設立当時、九経調はアジア経済研究所の地方事務局のような役割を担ってしまし

## ■協会概要（2018年3月現在）

名称 公益財団法人九州経済調査協会

所在地 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号 電気ビル共創館

www.kerc.or.jp

創立 1946（昭和21）年10月25日（2013年4月1日に公益財団法人に移行）

基本財産 6億円

- 目的
1. 九州の地域経済・産業に関する調査研究の実施ならびに助成
  2. 九州の地域経済の振興に関する事業の実施ならびに助成
  3. 資料の収集・整理・利用促進ならびに地域経済の振興に資する情報交流の促進を促すための経済図書館の運営
  4. 九州の地域経済・産業の振興に資する経済団体等の支援
  5. その他、九州の地域経済・産業の振興に必要な事業

組織体制 総務企画部、調査研究部、事業開発部（常勤従業員28名、研修研究員12名）

役員 会長1名・理事長1名・常務理事1名・理事4名・監事2名・評議員13名・顧問15名・参与14名



## ■八尋和郎館長プロフィール

九州経済調査協会に入社後、地域経済の調査・研究活動に従事。「福岡ドームの地域経済への影響」「福岡高速道路の延伸が地域に与えた影響」「都市における屋台の機能とその変化」などを発表。2007年4月情報研究部長を経て、2012年4月より事業開発部長兼会員制図書館BIZCOLI（ビズコリ）の館長。ビズコリでは近年、経済だけでなく文化、教養も含めた多彩なセミナーを主宰。また満鉄調査部関連の資料の収集・整理を行っている。趣味はアビスパ福岡の応援とヘビーメタル鑑賞。工学博士。

た。また、国会図書館や専門図書館協議会からの支援を受けて、国勢調査等の統計資料が自動的に送付されて来る仕組みとなっていたため、少しずつ資料が充実していきました。

現在、ビズコリに展示している図書は約1万冊ですが、書庫には20万冊程保管されています。しかしながら、まだデータ化が進んでおらず、十分に整理し切れていないのです。書庫に眠っている「蔵書の価値」をどうするのが今後の課題となっています。

九経調は2012年に現在の場所に移転してきましたのですが、移転前の経済図書館は約30万冊の蔵書を誇り、当時は蔵書数の多さこそが図書館のステータスだったのです。ところが、平成に入り、インターネットの登場により、インターネットで情報が検索できるようになると、経済図書館の利用者数は減少し続けました。この問題にどのように対応するのかについては、なかなか具体的な解決策が見出せませんでした。

実はオフィス移転前に、調査研究業務の傍ら、私自身は1、2年ほど経済図書館の館長を務めたことがあるのですが、その頃に企画したのが「自動車まるわかり展 in 九経調」でした。勉強会+懇親会という形で経済界の方々を招いて各自動車メーカーをイメージしたカクテルを提供するなど、既存の図書

館のイメージを覆すような改革を始めました。それまでの九経調は堅苦しい印象があったのですが、福岡経済を風刺することが持ち味の演劇集団「ギンギラ太陽's」を主宰する大塚ムネト氏と福岡大学商学部教授の田村馨先生との対談などを企画したことで、かなり印象が変化していき、努力が報われたようで嬉しかったです。

また、経済図書館の利用者数の減少に加えて、「九州経済白書」等の報告書をなかなか読んで頂けない状況に危機感を覚えて企画したのが、「ドラマティック！九州経済展」です。文章で詳細に表現するよりも、たった1枚の写真やパネルの方が一瞬で理解が得られたのです。いかに人間の視覚に訴えて情報を残すことが重要であるかを痛感しました。

## ●ビズコリ開設の提案はどなたが出されたのでしょうか。――

八尋館長 ビズコリ開設のアイデアを出したのは森本前理事長だったのですが、ご自身が強い信念を持ち、リーダーシップを発揮して開設に尽力されていたと思います。当時、私は調査研究部門に所属していたのですが、森本前理事長に説得されてビズコリの館長を引き受けることにしました。今にして思えば、オフィス移転がなかったら、ビズコリ開設は

実現しなかったでしょう。移転のおかげで、これまでの経済図書館から内装やコンセプトまであらゆる面で柔軟に変更することができました。

ビズコリの名前は、「ビジネス」「コミュニケーション」「ライブラリー」を組み合わせた造語で、九経調の若手がアイデアを出し合って決めました。オープンする1週間前にビズコリを一人で訪れ、これからどのように運営して行くのか、悩みながら長時間考え続けたこともあります。オープン前には、九経調メンバーが総出で本を並べたのですが、これが非常に大変な作業でした。ぎっしり隙間なく本が並んで、取り出しにくくならないように、本の冊数を増やすのではなく、来館者に手に取って欲しい本をどう見せるのか、どう利用してもらうのか、といった（クオリティの）視点を大事にしながら、利用者の感性に訴えかけるレイアウトを追求しました。図書館とインターネットの違いは、自らが歩いて本を探す過程で何かインスピレーションのような感覚が得られる点ではないかと思います。ビズコリではぜひ、来館される方々にもそのようなインスピレーションを感じ取って頂きたいのです。

● 開設から現在に至るまで、選書はどのようにされているのでしょうか。—————

八尋館長 経済書や統計書に加えて+αの部分に関しては、ビズコリスタッフに私も一緒になって考えています。できる限り、最先端の情報を取り入れたいという思いから、漫画や雑誌等も置いています。本を製作するにあたり、作り手は装丁にこだわっていると思うのですが、一般的な図書館では管理の都合上、ラベルやバーコードシールを貼ったり、印を押したりと見たために残念な部分がありますが、ビズコリでは極力ラベルを貼らず、貼ったとしても目立たない箇所にするなど工夫をしています。ビズコリの空間デザイン設計にあたっては、地元のデザイ

ナーである高須学氏のご協力を得たり、本の並べ方についても専門家であるブックディレクターの幅允孝氏からアドバイスを頂いています。

## 2. ビズコリの概要と特色

● ビズコリと他の図書館とのコンセプトの違いや、どのように差別化を図っているのかについてお聞かせください。—————

八尋館長 ビズコリの設立にあたり、九経調が入居するオフィスである「共創館」の付加価値を高めるという観点から、高級感を意識してインテリアや館内に流す音楽に至るまで細やかな部分にも気を遣っています。ビズコリの利用者の方々も、そのようなコンセプトを理解して下さっていて、自分を高めたいという意識を持ったビジネスマン等、必然的に一定レベルの方々が集まっています。現在、インバウンド観光客の増加等に伴い、外国人に日本の文化を説明できる人材が求められており、和食の食べ方やマナー講座等を開催するなどカルチャーや教養に親しむことにも力を入れています。

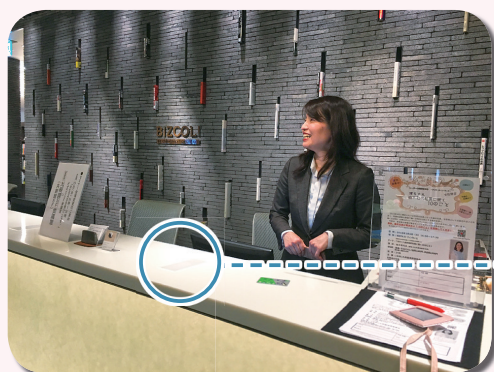
ビズコリは、普通のビジネス図書館とは一線を画してきたことで、有難いことに、2012年の開館以来、利用者数は年々増加し続けています。最近では、シェアスペースやスタディルーム等を提供するオ



ビズコリエントランス

ビズコリの概要	
【場所】	福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル「共創館」3階
【開館】	平日10～22時 土曜日10～18時 ※日曜・祝祭日休館
【面積】	600㎡ ※閉架書庫除く
【席数】	86席 ※全館無線LAN完備
【蔵書数】	20万冊
【会員数】	680社・人
【スタッフ数】	12名
【利用料金】	ビズコリ会員（個人）年額3.6万円～18.6万円、九経調賛助会員（法人）年額12万円～
【利用対象】	20歳以上の社会人
【運営】	公益財団法人 九州経済調査協会 TEL：092-721-4909
【代表】	館長 八尋 和郎（工学博士）
【HP】	www.bizcoli.jp

### 〈ビズコリ会員登録の流れ イメージ〉



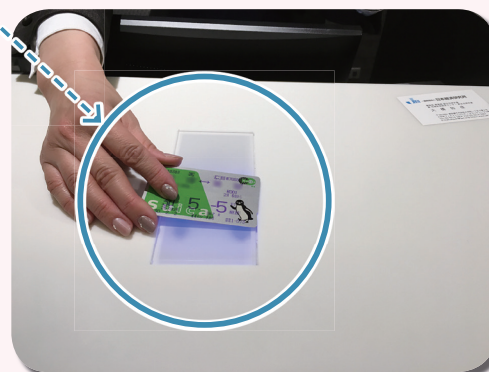
①受付で登録申請の手続きを行う。



②受付にてスイカ等の交通機関 IC カードと一緒に名刺を渡す。



③本人確認用写真撮影を行う。



④登録完了。以降、交通機関 IC カードを受付カウンター内リーダーにかざせば、入館可能となる。

フイスビルも増えてきていますが、ビズコリとは利用者層が異なっているので上手く棲み分けができています。他所との違いは、①文化・教養や芸術作品に触れあう機会の提供、②イベント時、お酒が飲めて会話ができること、③会員制、④ビジネスマン・社会人が対象、⑤高級志向 等が挙げられます。特に、ビズコリはシンクタンクである九経調自らが管理・運営を行っているが故に、テーマ毎に専門の研究者がいて、利用者に情報を提供できる点においてアドバンテージが高いといえます。シンクタンクを基盤として資料や情報を収集してきた歴史と、シンクタンクとしての知見を活かしている点が、ビズコリの最大の強みだと思います。

### 3. ビズコリでの取り組み

●ビズコリでの取り組みや主催しているイベント、セミナーの内容等についてお聞かせください。――  
八尋館長 ビズコリではこれまでもさまざまなイベントやセミナーを企画しており、週1、2回、年間を通して大小約70本のペースで実施しています。イベントやセミナーは毎回ほぼ満席になるなど盛況です。スタッフの数も限られており、できることに限界もありますが、2～3か月先までの予定が決まっています。

例えば、画廊とのコラボで絵画展を毎年開催し、本物のピカソやユトリロ、シャガールの絵を展示したこともあります。それらの絵画に囲まれたなかで音楽会も開きました。画廊にとってもインセンティブがあり、人が集まる場所で絵画を展示することによって画廊名や価格が目にとまって購入につながるというメリットもあるのではないかと思います。2015年には、「戦後の沖縄を忘れない」というテーマで沖縄展を企画して、沖縄経済の写真展や沖縄の特産品を並べて、スタッフ全員で「かりゆしウェア」を着て対応したこともありました。

最初の頃は、ビズコリの名前が浸透しておらず、集客には苦勞しました。しかし最近では、実績を積み重ねていくことを通じて、会員の皆様も興味を抱いて下さっているのではないかと思います。イベントやセミナーの告知方法としては、メルマガを約2,500通配信することに加えて、これまでの出席者の方々にも再度お知らせを送付しています。それでも人が集まらない場合には、新聞社を通じて告知をお願いすることもありました。マスコミに「ビズコリはいつも何か面白いイベントをやっている」という印象を持って頂くことで、ニュースや記事等に取り上げて頂ける存在でありたいと思っています。

●イベントやセミナーの企画にあたり、アイデア等はスタッフの皆さんで出し合っているのでしょうか。――

八尋館長 そうです、職員同士で話し合いをしながら進めてきました。これまでの経験やノウハウの蓄積等により、定番化してきたイベントもあります。ビズコリでは、月1回ミーティングの場を設けて、日常的に思いついたアイデアや外部からリクエストされた企画等を持ち寄り、ブレストを行っています。基本的には前向きに捉えて反対することはありません。ただ、いくらアイデアが良くても、どのように面白くするか、格好良く見せるか、人の記憶にインパクトとして残せるか、といった具体的な形にする段階ではしっかりと検討を行っています。

### 4. 今後の展開について

●今後の展開や新たな挑戦についてはどのようにお考えでしょうか。――

八尋館長 私自身もなるべく、外部とのネットワークを拡げて著名な講師を紹介して頂くなど、魅力的なイベントにつながるような交流を実践してきています。ビズコリは、天神地区や博多駅周辺地区のよ

うな中心部から若干離れた渡辺通地区にあるのですが、ビズコリがこの地区のまちづくりにも貢献できればと考えています。あくまで私の個人的な見解ですが、ビズコリから天神までは地下鉄と地下街を利用すれば歩いていけるのですが、「地下ネットワーク構想」のような整備計画等によって、天神や博多とは一味違うワンランク上のハイエンドなまちづくりを担えれば、という想いがあります。今後、知の交流拠点として産学官連携等も視野に入れながら、外部組織とのコラボレーションも積極的に図っていきたくと考えています。

そして、常にまだどこも手を付けていないような最先端な企画や斬新なイベントをビズコリから発信していきたいと思います。ただ、発信力だけでなく、受信力も大切です。今までは自分の専門性を磨いて情報を発信する方向に重点を置きがちだったのですが、ビズコリを通して九州や福岡を知ること、自分自身の考え方も変わってきたように思います。

これから挑戦したい企画として、社会実験の場としてビズコリ館内でドローンを飛ばしてお客様をご案内するアイデアも温めています。書籍の森のなかを小型ドローンのフェアリー（妖精）が誘導するイメージです。また、図書検索の際にSiriのようなAIを活用し、コンシェルジュのように会員個人の趣味・嗜好データの蓄積に基づいた書籍の提案や紹介も行ってみたいです。デザイン志向のクールでクリエイティブな空間をビズコリから発信できればと思っています。

## 5. ビズコリ利用者とスタッフの声

§ ビズコリ利用者である若林ビジネスサポート代表の若林宗男氏から、ビズコリの印象についてお話を伺いました。



交流ラウンジ

●利用者にとってのビズコリの魅力とは何なのでしょう。――

若林代表 私はビズコリのヘビーユーザーらしいですが、一番の魅力はやはりこの雰囲気だと思います。図書館なのにさまざまな人と出会えて話することもできる。新聞やレファレンス等の資料も充実しています。勉強会も開催されており、大いに刺激を受けています。勉強会への参加を通じて名刺交換ができ、同じような興味関心を持っている方々とコミュニケーションできてつながりを持てるので、他の方にも利用をお勧めしています。また、ビズコリはビジネスターミナルである博多駅と天神駅の中間に位置しているので、ビジネスの打合せや往訪予定が何件か入っている時に、細切れの空いた時間を有効活用できる点も便利です。

どのような施設にも当てはまると思いますが、利用されない施設は継続的な運営が厳しくなります。私はビズコリに価値があると思っているので通い続けていますが、ビズコリ運営継続のためにも利用者は増えるにこしたことはありません。一方で、あまりにも利用者が増え過ぎてしまうのも困りものですが、昼間から、ビズコリにビジネスマンが溢れてしまうようでは九州経済が心配になりますね（笑）。ビズコリへの要望としては、新刊が入った際はもっと積極的にPRをされるとよいと思います。

〈施設概要〉

**知の森 (ビジネス情報の閲覧)** 業界の最新動向や企業情報、九州のマーケティングデータなど、入門書から専門雑誌まで、インターネットで入手困難な幅広いビジネス情報が入手できます。

**交流ラウンジ** 談笑したり、ソファでくつろいでいただくスペースです。バーカウンターを設置しており、交流会などにも利用可能です。

**情報検索ゾーン** 日経テレコン21 (日経各新聞記事、企業、人事などのビジネスデータベース) が無料で利用できます。  
 ■ビジネスサービス  
 ・コピー、プリントアウト (1枚): 白黒10円、カラー30円  
 ・FAX送受信 (1枚): 50円

**ミーティングルーム (予約制)** BIZCOLIや会員主催の多様なセミナー・勉強会が開催されます。24名収容 (スクール形式) の会議室で、2つに分割して利用することが可能です。  
 ■ミーティングルームご利用料金 (3時間)  
 ・ハーフ利用 (12名収容): 4,500円  
 ・フル利用 (24名収容): 9,000円  
 ※ご予約は定期会員に限ります  
 ※ご利用は3時間～

**知の回廊 (企画展示)** 書籍に加え、写真・映像、グッズ等に触れることで、ビジネスにつながる気づきや発見が得られます。

**マイデスクゾーン (予約制)** 企画書作成や資格取得の学習に集中するための半個室のワークデスク15席が利用できます。定期会員のみ利用可。1時間100円。

● ビズコリの知名度については、どのように感じてもらえますか。――

若林代表 まだ穴場的な印象があります。九経調の賛助会員の方々はビズコリの存在を知っていると思うので、そういう方々が利用者となっているのではないのでしょうか。ビズコリの勉強会やイベント等を通じて、さらに多くの人を呼び込んでいく活動には意義があると思います。正直、利用者としては、今ぐらいの利用者数が理想的ではありますが、運営側にとっては施設を継続できなければ仕方がないので、有るべき姿を追求して頂き、それが利用者にとっても煩わしくない程度の混雑状態とバランスのできるのであればベストな形かと思います。

以前、私は東京の有楽町にある日本外国特派員協会のメンバーだったのですが、同協会もライブラリーを運営しており、ビズコリと非常に似た雰囲気がありました。ビズコリに通っていると、そちらを

利用していた頃の感覚に近いものがあり、懐かしく思い出されます。

§ 受付スタッフの祭城氏からもお話を伺うことができました。

● なぜビズコリの利用者は増え続けているのでしょうか。現場スタッフとして普段から感じていらっしゃるということについて教えてください。――

祭城氏 まず、ビズコリのフロアは3つのゾーンに分かれているのですが、利用者の気分によって利用する場所を変えられることが魅力の一つではないでしょうか。交流ラウンジではホテルのラウンジのようにリラックスできるBGMが流れており、昼間はクラシックがメインですが、夜はジャズがかかってムードのある雰囲気になるなど、音楽に造詣が深い八尋館長が選曲しています。静か過ぎず邪魔にならない程度の音量が、かえって居心地の良さを引き

出しているようです。館内では飲み物はOKですが、食べ物は基本的にお断りしています。

利用者は男性会員が多いのですが、最近では、女性の会員も増えてきています。女性会員の特徴として、他の施設と比較検討し、サービス内容などをよく調べた上で納得して会員になって下さるケースが多いようです。「ビズコリは高級感があって敷居が高いけれど、自分を磨くことができる」と仰って評価して下さる方もいらっしゃいます。現在、福岡でもカフェやスタディールーム等、ワーキングスペースとしての空間が増えていますが、ターゲット層が違うため、ビズコリと競合することは少ないようです。学生など若者はスターバックス等のカジュアルな空間を好み、社会人やビジネスマンはビズコリへと棲み分けも始まっています。

また、オフィスを持たない個人事業者たちもビズコリを利用することによってテレワーク的に仕事を行うことができますし、クライアントと打ち合わせできるラウンジもあるので、上手に使いこなしていらっしゃいます。ゲストも一回500円で利用することが可能なので、利用者と一緒に来訪されたゲストが雰囲気気に入って下さり会員になることもあります。なかには、忙しくて通えないことを理由に退会される会員もいらっしゃいますが、仕事が一段落してから改めてビズコリの価値を見直し、再入会される方々も増えていきます。

ビズコリはシンクタンクが母体の図書館ですので、会員の方々は他の図書館では得られない貴重な

データ・情報を求めて来館されています。敷居が高いと言われることもありますが、「ビズコリでないとダメだ」と言って頂けるようなサービスレベルを保ちつつ、信頼される図書館を目指していきたいと思っています。

## 6. おわりに～ ビズコリが目指す未来

- 最後に、今後のビズコリはどのような存在を目指していけるのか、メッセージがありましたらお聞かせください。—————

八尋館長 現在、図書館はIoT、AI、ロボットの登場など多様な環境変化にさらされています。今年は、そうした環境の変化にどのように対応していくのが問われる年になるのではないのでしょうか。その際に求められるのは、図書館を愛する人の豊富な知識と経験、加えて、しなやかな感性とデザイン力だと思います。日本から九州から新しい図書館のムーブメントが起きることを願ってやみません。

少年のように目を輝かせながらアイデアを語る、八尋館長の遊び心や夢が伝わってきて印象深い取材でした。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

(文責：一般財団法人日本経済研究所

地域未来研究センター 副主任研究員

大橋知佳)